

浜田開府 四百年に向けて

浜田発展の歴史と浜田医療センター

浜田市長 久保田 章市



浜田市は、2年後の平成31年(2019年)、開府400年を迎えます。そこで、過去400年の浜田の歴史を振り返り、浜田発展の転機となった3つの出来事についてお話したいと思います。

最初は、「浜田藩の誕生」です。1500年代後半、中国地方最大の勢力は毛利氏でした。

現在の中国5県の大半は毛利氏の領地で、当時、わが国を代表する銀鉱山であった大森銀山(石見銀山)も領地の一つでした。

1600年、関ヶ原の戦いがありました。この戦いでは徳川家康公率いる東軍が勝ち、負けた西軍の大將であった毛利氏は、周防・長門(山口県)に減転封されました。そして、江戸幕府は、銀山のある大森を天領にするとともに、毛利氏が再び勢力を拡大しないよう、1619年、「毛利氏の抑え」として、周防・長門と大森との間の浜田の地に浜田藩を設置しました。

浜田藩初代藩主は、大坂の陣で戦功のあった伊勢松坂藩主古田重治公です。古田重治公は、松坂(現在の松阪市)から、家臣、町民、職人など約4千人を引き連れて浜田にやってきて、亀山城(浜田城)を築き、「浜田八町三千軒」といわれる城下町をつくりました。浜田藩は、そ

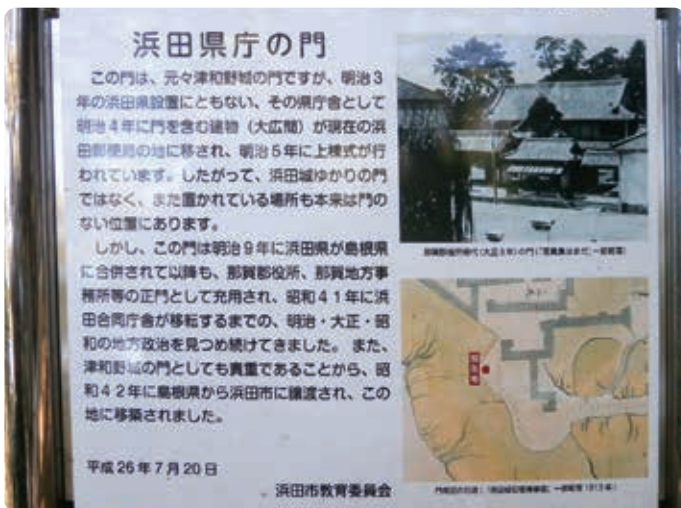
の後、古田家、松平周防守家、本多家、松平右近将監家の4家18代の城主のもとで248年間続き、城下町として栄えました。



二つ目は、明治初め頃の「浜田県庁の設置」です。明治政府は、明治2年、天領の大森と浜田藩を管轄する大森県を設置し、大森(現在の太田市)に県庁を置きました。

しかし、翌明治3年に大森県を廃止し、新たに浜田県を設置、浜田に県庁を置きました。更に翌明治4年には津和野藩が浜田県に併合され、浜田県は現在の県西部、いわゆる石見地域全体を統括することになりました(この年、東部には松江藩などを統括する旧島根県も設置されました)。その後、明治9年に浜田県と旧島根県が統合され、新島根県となり、松江に県庁、浜田には支庁が置かれました。

このように、浜田には明治3年から9年までの6年間、浜田県庁が置かれ、新島根県になってからは県西部を所管する支庁が置かれました。そして、裁判所、税務署、神戸税関支署などの国の機関も相次いで設置されました。また、教育面では、県内2校目の中学校である浜田中学校(現在の浜田高校)や、浜田師範学校、島根県高等女学校なども設置され、県西部の政治、経済、文化の中心として発展していきました。



三つ目は、「歩兵第21連隊の移駐」です。歩兵第21連隊は、明治17年、広島で創設されました。しかし、国防上の必要性から、明治31年に浜田に移駐されました。連隊の兵舎は、現在の浜田高校や浜田第一中学校のところに置かれ、現在の東公園(市営野球場や陸上競技場のところ)は練兵場として使われ、浜田駅北側、浜田医療センターや浅井町あたりは射的場でした。この連隊の移駐によって、その後、浜田は「軍都」として発展していきました。

連隊には、島根県全域、広島県北部などから2000人以上の兵士が入隊しました。大勢の兵士が浜田で生活するのですから、そのお陰で浜田の経済は潤いました。兵士向けの食糧、日用品などの納入があり、兵士は訓練が休みの日

曜日にはまちに出かけることから飲食店や映画館などが賑わいました。天満町には、当時、西日本屈指といわれた劇場「明治座」がつけられました(火災で全焼後、2度の建て替えを経て、映画の常設館「日勝館」となりました)。また、各地から家族が面会に訪れることから旅館も賑わいました。連隊は、水産加工業にも影響を与えました。浜田に最初に缶詰工場ができたのは明治25年頃です。その後、缶詰製造が軌道に乗り、新たな缶詰工場が増えていったのも、連隊への納入があったからだといわれています。



ところで、浜田医療センターが今日あるのも、歩兵第21連隊の移駐が大いに関係しています。明治31年の連隊移駐に伴い、傷病兵の治療や兵士の保健衛生のために浜田衛成(えいじゅ)病院が設置されました。衛成病院はその後、昭和11年に陸軍病院となりましたが、太平洋戦争の終戦とともに廃止され、全施設は国立浜田病院に引き継がれました。皆さんご存知のように、この国立浜田病院が、その後、平成21年、国立病院機構浜田医療センターになったのです。歴史に「もし」はありませんが、もし連隊が浜田に移駐されていなかったら、浜田医療センターは、今日、別の形態の病院であったかも知れません。

さて、今日の浜田市を支えている産業は何でしょうか。浜田市の人口は現在約5万6千人ですが、そのうち、事業所で雇用されている人は約2万7千人です。雇用者を産業別に見ますと、最も多いのがサービス業で約5千8百人。次いで、卸・小売の約5千3百人、3番目が医療・福祉の約4千8百人です。卸・小売の雇用者は年々減少していますが、医療・福祉の雇用者は年々増加しています。その中でも、一事業所の雇用数としては浜田医療センターが最も多く、医師、看護師のほか職員総数約620人の方が働いておられます。

高齢化が進む浜田市にあっては、今後、益々、医療・福祉に対するニーズが高まっていくものと思います。医療・福祉の雇用者は、そう遠くない将来、産業別ではトップになるような気がします。そう考えると、浜田は、医療と福祉のまちと言えるかも知れません。

高齢化は益々進み、それに伴い医療や福祉の形態も変わり、今後、地域包括ケアシステムが重要になってきます。高齢者を支える地域包括ケアシステムの構築が求められる中、医療センターに担っていただく役割は更になってきます。浜田医療センターは、県西部の中核病院であるとともに、地域の医療・福祉の要として、今後益々の発展を期待しております。